

小規模多機能居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	エフビー介護サービス(株)	代表者	柳澤 美穂	法人・事業所の 特徴	「ケアライフ春日」は、住宅型有料老人ホーム・訪問介護・小規模多機能型居宅介護事業所・通所介護・居宅介護支援事業所を同敷地内に併設した、上越市初の複合型施設です。‘自分らしさ’を大切に、住み慣れた町での暮らしを支えます。					
事業所名	小規模多機能あつたかほーむ春日	管理者	藤田 梨恵							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	合計	
		1	1	1	1	1	1	1	7	
項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見			今回の改善計画				
A.事業所自己評価の確認	事業所も目標、職員各自の目標を明確にし、今は何が出来て何が来ていないのかを常に考え行動出来るようにする。ご利用者様やご家族にとって貴重な時間をあつたかほーむ春日で過ごしていただくことの感謝を忘れずに多職種が協力しより良いサービスが提供できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修は定期的に行っている。外部から講師をお願いすることもあった。リモート研修やケア会議や勉強会にも参加出来ている。 ・感染がクラスターになっている時は書面開催にての参加になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会も感染対策や制限はあるが行事やイベント等は再開している。町内の方も参加しているので例年のような賑わいや参加率が増えるといいです。 ・事業所の玄関、交流室以外は外部の方が入れない状況ですが、面会等に回数制限はしていません。介護の相談に来られる方もいます。 ・回覧板にて事業所活動を知っていただくことも継続できれば良い。 			事業所も目標、職員各自の目標を明確にし、目標達成に向け職員一人一人が必達出来るように意識を高く持ち取り組む。小規模だからできることは事業所の強みになり、住み慣れた場所で利用者様と関わりのある関係者、医療、介護、多職種チームで連携を図り一体的なサービス提供が出来るようにする。				
B.事業所のしつらえ・環境	感染に状況に合わせながらどう楽しんでいたか、情報収集を行いご利用者様の希望も取り入れながら計画する。地域との関りも持てるように連携を取り参加可能な事については積極的に参加していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため事業所に入りは出来ない状況は昨年から続いている。玄関、交流室での対応にはなるが事業所に入って不快な匂いは無い。 ・夜間は防犯上の理由から運番勤務終了後に鍵をかけている。日中は施設していないためどなたでも出入りが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に入って不快な様子はない。職員は笑顔で出迎えてくれる。毎月色々なレクを考えて提供している様子が伝わる。時々行くドライブが楽しい。 ・地域の方で介護の相談に来て下さる方が数名いた。 ・市の介護相談員派遣事業に参加させていただき明るくて職員の雰囲気が良いと評価頂いた。 			事業所が相談しやすい場所になるよう地域との関り方を増やし楽しみや生きがいを持てるように、幅広く対応できる工夫をしていく。				
C.事業所と地域のかかわり	エフビー通信の継続を行い、地域の方に知っていたく努力を継続する。参加できる行事等には感染対策を行いながら参加、交流し地域との関係性が切れないように向うしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話での対応も良いので安心して話が出来ます。こまめに連絡をくださるので助かっています。 ・敬老会は参加してもらって良かったです。夏祭りは町内も子供だけの参加になります。今後も少しずつ制限が緩和されるはずなのでぜひどうぞ。 ・エフビー通信は見るよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員さんはいつも元気に声をかけてくださる。 ・訪問に来てくれた時に相談話をすると、他の職員や必要なことは他の事業所にも伝わって連携が取れているのだと思う。 ・職員間で情報共有に関して行きわたらないこともあったがお互いに連携をとることで情報が伝わる工夫をしている。 			利用者様、関わる方の困りごとや悩みを聞き、それぞれの地域でのかかり方が違うので事業所への取り組みを理解していただけるよう、お互いの意見交換できる場を作り情報共有することで幅広くサービス提供をしたい。				
D.地域に向う本人の暮らしを支える取り組み	ご利用者様のサービス提案の際は広い視野を持ち多角的に提供するため、日々地域の発信に関心を持ち研修等に参加、色々な情報を得ることが出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では利用者様にも参加していただけた。参加する事で喜びを感じて頂けた。 ・登録されている方以外にもお試し利用、見学の希望者が数件あり、対応できた。 ・地域のイベントに職員も利用者様も参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議に参加し民生員との関りを持つことが出来た。地域の中ではごみの出し方が間違っている、庭木の手入れがされていない等で変化を感じることもある。 ・インフォーマルサービスにも関りがあるので提供したとしても選択するのは利用者様、家族様なので初めの方は抵抗感を感じる方もいた。お試し期間やサービスに慣れてくると安心して利用される方もいた。 			まだ感染症関係で制限があると思うが、各利用者様の地域の活動や関わりを確認することで少しでも地域の活動に参加できるように声をかけていく。その際は事業所の活動を知って頂きお互いの利用者様にとっての協力者になれる関係性を目指す。				
E.運営推進会議を活かした取り組み	感染対策を行いながら会議の開催を実施し、意見交換、情報共有、有事の際の対策等、役割分担が出来ると関係性を目指す努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議内で出る、コロナやインフルエンザ等の感染症対策の工夫をしても広がってしま大変そうなのが伝わる。 ・対面会議が毎回開催されるので書面よりお互いに伝わりやすい、対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に地震があり今までに感じていた以上に課題が見えてきた。BCP作成もちろん利用者様の安全を守るためにどのような活動をしているのかお互いによく確認できる、連絡方法等が必要になると感じた。 ・個人情報を守りながら利用者様の事例を話すことで事業所のサービス提供や取り組みが理解できる。 			運営推進会議のテーマを毎回決めることにより意見交換しやすい内容にする。それぞれの役割がつながるような関係性になる努力をする。				
F.事業所の防災・災害対策	いつどのような災害が起こるかを想定したマニュアル作り、見直し等を行う。災害訓練を定期的に行う事でいざという時に迷わない行動がとれるようにしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難所として使えるのはありがたい。 ・防災訓練については計画していると思うが見たことがない。 ・職員さんが救急のAED使用訓練、防災訓練しているところは見れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP作成はしているので 役に立っている。 ・地域の避難訓練も今回の地震以降また検討が必要になる ・実際避難してきた方の対応も大変。 			災害を想定したマニュアルの作成は出来ているが、色々な角度から見るとまだまだ課題が多い。それについて細分化を行い、いざという時に的確に判断できるようにしたい。				